

<小林 真 副院長>

去る6月7日 万代シルバーホテルで開催された、新潟市在宅医療ネットワーク情報交換会に出席させていただきました。当会合は、新潟市各区に一つ以上ある、計22の在宅医療ネットワークの関係者・スタッフ、及び、新潟市医師会、新潟市保健衛生部の方々、合計120名超が参加されました。当院からは、小林と、斎藤相談員、鈴木看護師が参加させていただきました。北区では、北区医療と介護のささえあいネット（ござれやネット）代表 山口クリニック 山口正康先生、訪問看護ステーションふくふくのスタッフの方、阿賀北、上土地亀、くづつか、各地域包括支援センターのスタッフの方、新潟医療福祉大学の先生、新潟市北区健康福祉課・新潟市地域医療推進課、新潟市介護保険課の方が参加されました。基調講演の後、新潟市保健衛生部の方、新潟医療福祉大学 鎌田 剛 教授のご講演を拝聴し、その後、様々な地域に所属するスタッフの方とのコミュニケーションが図られ、討論が行われました。在宅医療ネットワークは長い地域で設立から20年、短い地域でも10年が経っており、一定の成果を上げることができ、安定した状態にあるようです。今後の課題として、参加者の固定化、労働時間による制約、デジタル化への対応などがあげられていました。また、いずれの地域でも同じような悩みを抱えている事を再認識しました。当院としても、さらに、医療・介護の両面で、北区及び周辺地域皆様のお力になれるようにしなければ、と考えました。



各区及びネットワークの強み、課題についてグループワークを行いました

<リハビリテーション科 立石技師長>

豊栄病院リハビリテーション科では、急性期から回復期・慢性期まで幅広い病期の患者様を対象に、切れ目のないリハビリテーションを提供しています。現在、リハビリ対象患者様は外来2割、入院8割であり、外来では整形外科疾患が大半を占めています。一方、入院患者様では高齢者に多い肺炎や内科疾患、整形疾患、手術前後の廃用予防を目的とした介入が中心となっており、施設入所中で心身機能が低下している方に対しても、さらなる機能低下を防ぐための支援を積極的に行っています。スタッフは理学療法士7名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、事務員1名の計15名で構成され、各専門職が連携しながら質の高いリハビリテーションを提供しています。

2026年4月からは、地域包括医療病棟（4北）48床において365日体制のリハビリテーションを開始し、早期からの介入によって機能改善と早期自立支援を図る体制を整えました。多職種との協働を重視し、患者様の生活歴や背景を踏まえた支援を行うことで、退院後の生活を見据えたリハビリテーションを実践しています。今後も、心身機能の改善だけでなく、心理面への配慮も含めた包括的な支援を提供し、地域の皆様が安心して相談できる環境づくりに努めてまいります。



患者さんが作業療法で作成した作品です



阿賀野川花畑公園
小林撮影(R7年夏)

今号から時事ネタに加え、各部署の紹介を順次していきます。次号は栄養科からお伝えします(^o^)

発行責任者：豊栄病院 副院長 小林 真
令和8年7月